

清水合金製作所

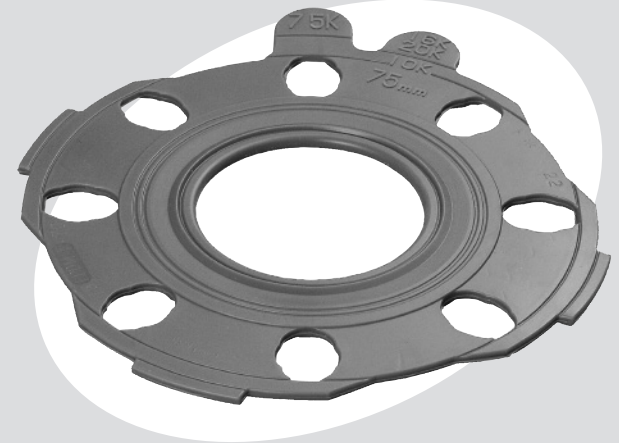
補強部材シリーズ
数珠つなぎ②

仙台営業所長 珍田 英司 氏



イチオシ!

マルチガスケット Plus

耐塩素性、耐候性、絶縁性など
多様な特性を「Plus、」

珍田英司所長は1998年に入社し営業一筋に歩んできたベテラン社員。所内営業マンらのフォローに加え、青森県、宮城県を担当エリアに営業活動を展開している。

今回、珍田所長がイチオシする製品は昨年春から販売を開始したマルチガスケット Plus だ。

従来のマルチガスケットはフランジ接合部の耐震補強を目的に開発されたもの。独自のボルト穴形状で 7.5K~ 20Kのどのフランジにも対応可能。しかもGF、RF形兼用であり、あらゆるフランジ接続に対応できるオールマイティなガスケットとして今や増産体制に入るほどの人気製品だ。

では、「Plus、」とは何か。

「マルチガスケットの特長はそのままに、耐塩素性や耐候性、電気絶縁性などがプラスされているのです」と珍田所長は説明する。

優れた性能のキーポイントとなるのは耐塩素性EPDMの採用だ。

「耐塩素性EPDMは塩素に強いゴム素材です。ソフトシーリング弁の弁体に使用しているもので、耐塩素性や耐久性はもちろん、耐オゾン性、耐薬品性、さらに屋外配管などに使える耐候性などの特性もあります」。

製品テストを繰り返す中、すぐれた電気絶縁性があることも判明したという。

「これまでもマルチガスケットの絶縁性について多くの問い合わせを頂いていました。ですからPlusの販売を開始してカタログに載せるやいなや、注文を頂くケースもありました。ポンプ場のステンレス配管に10枚ほど納めた実績もあります。耐候性能や絶縁機能とともに圧力が高くなるポンプ場を使用



高機能な「Plus」への引き合いも強い

したいということでしたね」とマルチガスケットから引き継ぐ高評価だった。

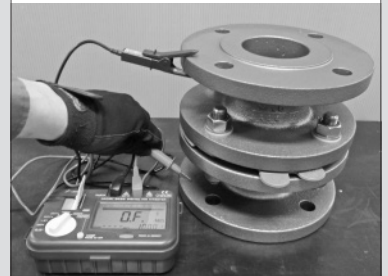
ステンレス鋼管と鉄管の接続などの異種金属配管の腐食防止には絶縁ガスケットが必要だが、これまでのテフロン製のバックインと比較して価格面のメリットもある。

「テフロン製と比較すると半額程度で収まるのです。マルチガスケットは備蓄材として定期的に納品しているところがありますが、Plusも期待できますね。耐塩素性EPDMが持つ耐老化性により、40年以上は持つと考えます」と話す。

さらにマルチガスケットが 7.5K~ 20Kのフランジに対応可能という特長については、「ある事業体から、漏水の発生時に 7.5Kのフランジと思って現場に行ったが10Kだった。でもマルチガスケットだったから対応できたというお話も聞きました。これらの特長は Plus も同様に引き継いでいます」と。

最近、マルチガスケットを全面採用する事業体も増えてきた。

「Plus は販売開始したばかりです。今は口径 50 から300までですが、600までの生産を計画しています。ステンレス芯金の効果もあって口径が大きくなっても施工が容易ですから事業体のニーズも多いのです」。今後とも、マルチガスケットと Plus をそれぞれの用途に応じた提案で営業展開する方針だ。

絶縁状態配管での抵抗値測定
(1MΩ以上で合格)

4000MΩ以上を示す

絶縁性能あり



フランジ部に漏水が発生するとバックインを取り換えるなど作業員を現場に呼んで対応しなければならない。イニシャルコストこそ比較的割高になるが、漏水発生時にかかる作業費用なども考慮すると、コストパフォーマンスは非常に優れている。この特性に加えて「Plus」した機能があるから、水道事業者の関心は高まっていくのではないだろうか。水道施設の強靱化が求められるなか、マルチガスケット、そして Plus の果たす役割は大きいものがあると感じた。